



子どもを育てる地域の力

推進員からの報告

「青少年をまもる店」あひるのマークがついたプレートを知っていますか？

私たち和光市青少年育成推進委員会は、地域のお店にお願いをして、将来を担う子どもたちの安全を見守っていただくよう「青少年をまもる店」のプレートを、店内の目に止まるような所に掲げていただき、ご協力いただいています。

地域のお店と私たちが、年2回情報を取り合えることで様々なことを伺い、活動に活かされていることは言うまでもありません。

そんな中、どちらかという心温まる良いお話は少ないのですが、あるコンビニの方からいただいたお話をご紹介します。

4年前から学校の側にありますコンビニの駐車場を、自主的に清掃活動している高校生達があります。和光高校野球部の皆さんです。

毎週1回早朝に活動されているそうです。大型トラックなども出入りする広い駐車場を、食べ残したもののヤタバコの吸殻などを黙々と掃除し



まもる店のプレート

て、きれいにしていくとのこと。お店の方も「大変助かっています！」と感謝していました。そして「週1回とは言うけど、どなかなかできることではないですよ」とも。

お店の方のお話には続きがありまして、マナーの悪い大人も少なくなく、一生懸命掃除をしている生徒に、ポーンと自分のゴミを渡して立ち去る大人もいるそうです。

野球部の生徒が、活動しているこの行為を先輩から後輩へ、その生徒たちが次の後輩へ引き継いでいる姿は、とても素晴らしいことではないでしょうか。

昨年末には、下校時の子ども達の命を奪われた事件もありました。このような時こそ、ますます地域の

の力が必要です。和光市の場合その一つが「青少年をまもる店」の存在ではないでしょうか。

お店と子どもたちが自然体でいい関係になっている様子は、万が一の事件・事故に、子どもが遭遇した時に、大きな地域力を発揮してくれることと思いました。



コンビニの駐車場を清掃する和光高校野球部の生徒たち

私たちの活動から、
皆さんにお伝えし
たいことを掲載し
ました

地域の私たち一人

情報交換会

少年指導員との 情報交換会



昨年10月12日の定例会時に、少年指導員5名の方と朝霞警察署生活安全課高橋係長をお招きし『和光市の状況について』お話を伺いました。

- 今年もすでに800件余り（朝霞警察署管内）の少年・少女を補導している
- 事件の多発化・低年齢化が目立つ
- ゲームセンター・カラオケボックスなどで、家出と思える少年を補導

補導して聞いてみると…

- ほとんどが、家庭に問題がある
- 淋しがりやである
- 大人（親・先生など）とのふれあいを求めている
- 家庭の温かさを欲している

指導員からのメッセージ

▶ 子どもたちは、突然非行に走るのではなく必ずサインを出しているはず、それを発見できるのが家族であり、最も身近な母親である。

▶ 親はどんなに忙しくても「お早う」「行ってらっしゃい」「お帰り」などの、あいさつのできる環境作りをすることで、その中から子どもの変化を感じ取れると思う。

少年指導員さんのお話から、私たち推進員も親であり、地域の一員でもあることから日々の生活の中で、できることがあるように思いました。



三中卒業生の保護者であり、地域でも様々な活動をしている方を中心とした3、4名が、週3回、和光第三中学校を囲む歩道と学校敷地内を清掃しているボランティアグループがあります。

独自に作った防犯の腕章を付け、登校してくる生徒に朝のあいさつをすることから活動が始まり、歩道に落ちていた紙くず・空き缶

なども拾い、草木の手入れもしています。

樹木の多い三中敷地内、フェンスに沿うように植えられたバラなども通行人が怪我をしないよう丁寧に剪定されています。この活動を通し、生徒たちや地域の方から温かい言葉をかけられることが一番嬉しいとのこと。

今冬は格別の寒さです。今日も生徒たちの安全を見守りながら活動続けていることでしよう。（三中推進員より）

発行
・3月15日「あひる」51号
・図書マップの原稿作りと印刷

- 2月定例会
- 3月定例会



君のライブ

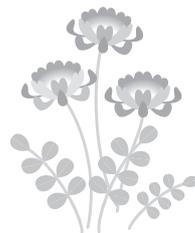
● 1月定例会
・和光市図書館との情報交換会
・和光市民会議「君のライブ」手伝い



風揚げ大会

● 12月定例会
・研修会「和光国際高校半場先生を囲んで」
・青少年健全育成作文発表会手伝い
・心の教育朝のあいさつ運動に参加
・新春風揚げ大会と前日豚汁作り手伝い

ひとりができることは？



研修会・情報交換会から

「高校の保健室から見た 思春期の子どもたち」

昨年12月14日の定例会後、和光国際高校養護教諭半場先生にお越しいただき研修会を行いました。



生徒が抱える悩みや不安をサポートするために、生徒の日常の生活行動からちょっとした変化やサインを見逃さず対処することで深刻にならないようにしているとのこと。

また、最近の高校生は、学校や家庭での人間関係にいろいろなストレスを抱えており、不登校・リストカット・摂食障害・パニック障害など、自分自身の心や体を通して必ずシグナルを出しているそうです。

お話の中で特に印象的で強く思ったことは、高校生にそのような症状が出るのは、その時に原因があるのではなく、小学生の頃の過ごし方が大きな影を作っているということです。

小さい頃はのびのびと体を使って遊び、失敗や挫折の経験をとおしてコミュニケーションの必要さを学んでほしい。親は、子どもとしっかりと向き合う時間を作り、子どもの話をよく聴いてあげる等、日常生活の中には大切なことが多くあることも、話されました。

この研修をとおして、私たちはもう一度子どもとの関わり方を見つめ直したいと思う、有意義な時間でした。

「異世代交流型の図書館を目指して」 —和光市図書館との情報交換会—

今年1月の定例会には、和光市図書館の柳下館長をお招きし、図書館の職員から見た子どもの様子、図書の傾向、特色ある図書館作りについていろいろな工夫されていることについてお話を伺いました。

- ブラウジングコーナー（新聞雑誌など）には、採光をよくしてスペースも広くしている。
- 市民参加の講習会、子どものための読み聞かせ、ビデオ上映、つどいの実施。
- 学校訪問などによる読書の傾向などを収集。
- 学校と連携しての事業。
- 子育てに関する本を1ヶ所に集めたコーナーの新設。



新設の子育て支援コーナー

今後は、子どもたちが気軽に利用できるようなサービス向上に心がけたいとのこと。一方では、団塊の世代向けの実用書コーナーなどを設けて、高齢化社会への図書館なりの対応をしたいとも。そして、外からでは分からないご苦労話もちよっぴり聞くことができました。

平成17年度活動報告

- 5月委嘱式・定例会
- 6月定例会
- 6月～7月初旬「青少年をまもる店」市内全域訪問調査
- 7月定例会
- 朝霞警察署警察官と情報交換会
- 7月～8月夏祭りなどのパトロール
- 8～9月「まもる店」の報告書作成
- 「のぞ」50号編集
- 8月23日青少年夏季スポーツ大会キックベース会場手伝い
- 9月1日「のぞ」50号発行
- 心の教育朝のあそび運動に参加
- 9月定例会
- 10月定例会
- 少年指導員との情報交換会
- 11月定例会
- 推進員の活動について意見交換会

ふれあい あれこれ

「地域文庫」をご存知ですか？自治会・管理組合・育成会などが主になって「本に親しめる場」を設置しています。市内3か所の地域文庫の役員の方から寄稿していただきました。



DIK なかよし 文庫

親も安心！地域文庫

白子 2-9 DIK マンション エントランスホール
10:00 ~ 16:00・木曜日休み

子どもDIK なかよし文庫は、昭和58年頃より20数年間、地域の子ども達に本を貸し出すなどの活動を続けてきました。

以前昭和60年頃には子どもたちが264人もいたようで、さぞかしなかよし文庫も賑わっていたことでしょう。

本は和光図書館から借りていて、定期的に交換をしていましたが、ここ数年は変わらず、市民が不要になった本などを提供していただくなど、数は増えてきています。

場所は、エントランスホールにあって、10時

から16時まで開いており、木曜日はお休みです。

利用方法は、所定の貸し出しノートに記入して借りること、就学前の子どもには、保護者が付き添うことになっています。年に2回ほど育成会の役員が本の整理をしています。

下校後の子ども達は、なかよし文庫に集まって遊んでいます。特に雨の日は文庫が狭くなるほど。

DIKの子ども達だけでなく、近所の子ども達も誘って集まっているのでとても賑やかです。このようなところがあると保護者も安心できると思います。

ひまわり 文庫

地域文庫をとおしての 子どもの様子

広沢1 和光官舎集会所内
月曜日のみ 15:00 ~ 16:30

今、子ども達の本離れはどうかのかなと思ひ、自治会の役員になったのを機会にひまわり文庫を引き受けました。

子どもたちは、テレビやゲーム、たまごっちばかりと思っていましたら、結構本を借りに来る子どもが多く、親子でもたくさんの本を借りていました。

私自身あまり本を読まないのですが、子どもが小さい頃には、よく市の図書館を利用し料理の本、手作り洋服の本を借りて作りました。

このひまわり文庫でも、子どもたちにもっと本を読んでもらえるよう、増やしていきたいと思っています。また近隣の図書館を利用して、子ども達の本離れが少なくなればいいなあとも思います。

文庫の役員をやることは大変でしたが、子どもたちが良く本を読んでいることに感心しています。



すわはら 文庫

地域に根ざした文庫

諏訪原団地 1-11 集会所内
15:00 ~ 16:30 (貸出は日曜日
のみ 10:00 ~ 11:00)

40年ほど前に諏訪原団地ができて間もなく、有志のお母さんたちの読書会活動の中から子ども達を対象にした「文庫」が生まれました。始めは有志による自主運営でしたが、やがて管理組合の自治業務の一つとして認められて補助金が出るようになり、担当の評議員と有志が組んで当番をするようになりました。暫くは「理事会文庫」と呼ばれていましたが、ここ20年は「諏訪原文庫」に定着。

内容的には、子供向けの絵本と読物が中心でしたが、自然科学・社会科学・技術・趣味娯楽と幅を広げてきています。近頃は、保護者や高齢者の利用も少しずつ増えており嬉しく思っています。

「図書マップ」を、4月1日に発行の予定です。市内を4地域に分けて、本に出会える場所を分かりやすく紹介しています。どうぞご利用ください。

